



祝・開館5周年

季刊

弥生の出雲王に出会える



# 出雲弥生の森博物館だより

## IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第18号

(2015年7月)



### ★夏季企画展

### 『出雲の「ごっつお」の考古学』

7月4日(土)～8月31日(月)

【観覧無料】



「ごっつお」とは、出雲弁で「ご馳走」のことです。

今回の企画展は、「食」の歴史にスポットを当てます。私たちの普段の生活で「食べる」ことが不可欠であるのは、今も昔も変わりません。

遺跡を調査すると、そこで暮らした人びとが食べた動物の骨や木の実、あるいは調理に使った道具が見つかることがあります。

こうした品々を通して、昔の出雲の人たちは何を食べ、どのように調理したのかを紹介します。



### ●ギャラリートーク

7月18日(土) 14時～15時

【講師】高橋 周

(出雲弥生の森博物館)

### ●体験教室

「弥生人の方法で

ご飯を炊いて、食べてみよう！」

7月20日(月・祝)

14時～16時

【講師】

濱野浩美氏

(米子市教育委員会)

定員 20名

### ●関連講演会

「再現！戦国大名・大内氏の御膳」

8月9日(日) 14時～16時

【講師】北島大輔氏

(山口市教育委員会)

定員 80名

大内氏が足

利将軍にふる

まった御膳に

ついてお話し

ます。



大内氏の御膳



炊飯を再現

### ★企画展

### 夏休み子ども向け講座

8月8日(土) 10時

「弥生のコメはどんなコメ?!」

いつも食べている「ごはん」について考えてみませんか。

試食コーナー

弥生人が食べていた、古代米を食べてみよう。

○親子で参加できます。

参加費無料

※当日は博物館1階にお集まりください。よすみちゃんが受付でお待ちしています。

### ★サマーナイトミュージアム

8月8日(土) 17時

出雲弥生の森博物館を特別に20時まで開館します。

「バックヤードツアー」開催

普段は見ることができない博物館の裏側を探検！

展示室に陳列していない資料を見ることが出来ます。

### 探検隊限定バッジ進呈

●1回目 18時

●2回目 19時

お気軽にお立ち寄りください。

★特集 2015年 企画展

『王城の「ついで」の考古学』

私たちは毎日の食事の中で、「ごはん」と「おかず」を食べています。この「ごはん」と「おかず」の組み合わせが生まれたのは、弥生時代のことです。

弥生時代にコメ作りが伝わり、出雲の弥生人は「ごはん」を初めて炊いて食べました。どんな味がしたのでしょうか。「ごはん」の登場は彼らの食生活において比べられない進化をもたらしたと考えられます。弥生時代以降、「ごはん」は出雲の「ごっつお」に欠かせないものとなっていきました。ただし、「ごはん」と言っても、昔から同じように炊かれていたわけではなく、調理法は時代によって異なります。

コメ作りを始めた弥生時代の人びとは、コメは煮たのち吹きこぼれを合図に、弱火で蒸らして食べる方法と同じで、やわらかく、ふっくらしたご飯だったようです。「始めチョロチョロ中パッパ、ジユウジユウ吹いたら火を引いて、赤子泣くとも蓋とるな。」とは有名な

ご飯の火加減を示した言葉ですが、その意味を理解できたのかもしれません。美味しいご飯が炊けるように、弥生人は写真のような土製の蓋を考え出しました。矢野遺跡（出雲市矢野町）でも、たくさんさんの蓋が見つかっています。次第に蓋は土製から木製へと変化したとされ、それに対応するかのようになり、ご飯を炊く甕（かめ）の口が蓋を受ける形に変化していきま

す。ところが、古墳時代中期から奈良時代にかけて、下の写真のような炊飯セットが使われました。下の甕（かまど）で火をたき、真ん中の甕（こしき）に入ったコメを蒸したので、つまり、現在の「おこわ」に近いものだったと考えられます。



弥生時代の炊飯セット

鎌倉時代以降になると、鉄鍋の



古墳時代の炊飯セット

普及などにより、再び、やわらかいご飯が食べられるようになりま

す。このような炊飯方法の変化は、使われた土器に残るススやコゲの違いに表れます。つまり、直接火にかけて弥生時代の土器には、火が当たる底にススが残りません。一方で、古墳時代以降、カマドなどに土器をかけて火を当てるようになると、土器の底にススが付くようになります。古墳時代から奈良時代にかけて、近現代の五徳に相当する土製支脚が使われましたが、その支脚と接する部分だけが白くススが付かずに残っている土器も見られます。

このように、土器などの調理具に残された使用時の痕跡を丹念に調べると、どのような調理が行われたのか、知ることができます。

(高橋 周)

★市指定文化財 北光寺古墳

今年の1月に市指定文化財になった北光寺古墳は、東神西町と知井宮町にまたがる標高97mの丘陵上にあります。長さは64mで、古墳時代中期(5世紀ごろ)に限ると、出雲で最大の前方後円墳です。

これまでの発掘調査成果などから、北光寺古墳は、二段築成の整った形で、石が貼られた外観は白く、山の緑を背景に目立っていたと思われま

す。かつては、出雲平野の西側に神門水海があり、日本海から神門水海を通じて、この出雲を訪れる他地域の船も多かったことでしょう。北光寺古墳は、これらの船に対して威厳を示すことを目的に築かれたと考えられます。(三原一将)



北光寺古墳のイメージ図  
絵・柳楽啓仁



昨年行われたライトアップ

★大社駅はじまり  
プロジェクト2015

昨年、J R西日本米子支社と山陰中央新報社、出雲市の三者で大社駅はじまりプロジェクトを立ち上げました。昨年度もイベント等を開催しましたが、今年度も様々な取り組みを行います。

●パネル展

「新聞紙面に見る重大ニュース」  
明治45年（1912）の大社線開通から今日までの大社駅の姿を、新聞記事を元に紹介します。

●大社駅舎ライトアップ

昨年12月に試行したライトアップが好評でしたので、この

たび常設が決定しました。毎週末、駅舎の幻想的な姿を見ることができます。

●駅舎シアター

7月25日（土）に駅舎内で「駅」にまつわる映画を上映します。軌道自動車やミニSLの体験乗車など各種イベントを開催します。

●旧大社駅保存活用計画の策定

重文駅舎の保存と活用を模索するため、専門家の方々も交えた検討委員会を設置、検討していきます。

この他にも地元で設立された、たしや駅交流ネットワーク会議とも連携し、様々な事業を計画していきますので、皆様ご期待ください。

★文化庁日本の技体験フェア

「ふれてみよう！」

文化財を守り続けてきた匠の技

9月12日（土） 13時～17時

13日（日） 10時～16時

会場 大社文化プレイスうらら館

全国から伝統の技が大集合。展示や実演のほか体験もできる楽しいフェアです。詳しくは広報出雲9月号で紹介いたします。

★書籍発売のお知らせ

「出雲鰐淵寺埋蔵文化財報告書」

六月一日から「鰐淵寺埋蔵文化財報告書」の販売を始めました。

鰐淵寺は、出雲市別所町にあり、多くの寺宝を有する古刹（こさつ）です。出雲市では、この度、初めて境内における発掘調査や分布調査、さらに周辺エリア石造物の調査など、総合的な埋蔵文化財調査を実施し、その成果を一書にまとめました。

【内容】

- 1 鰐淵寺調査の経緯や位置、歴史、文化財について（1～3章）
- 2 各調査（分布調査、発掘調査、石造物調査）の成果概要（4～6章）
- 3 調査の総括（7章）

『明治初期焼失の和多坊の建築学的復元』和田嘉宥（国立米子高専名誉教授）

『鰐淵寺の考古学的成果』

大橋泰夫（島根大学教授）

『中世山林寺院の調査とその保護』

坂井秀弥（奈良大学教授）

『鰐淵寺の歴史と変遷』

井上寛司（島根大学名誉教授）

など論考を9篇収録

鰐淵寺の歴史に埋蔵文化財の側面から光を当てた報告書です。鰐淵寺、さらに出雲における、山の寺を知るうえで必読の一書です。ぜひ、この機会にお買い求めください。



出雲鰐淵寺埋蔵文化財報告書

販売価格 3,000円

販売部数 200冊限定

【販売方法】

○直接購入の場合

出雲弥生の森博物館ショップで販売しています。

○郵送で購入の場合

電話・FAX・メールで受け付けています。詳しくは、つぎの番号へご連絡ください。

【電話】 21-6893

【FAX】 21-6617

【メール】 bunkazai@cityizumo.shimane.jp

版・頁数 A4版・452頁

（内図版72頁）

重量 1,560g

※売り切れの場合はご容赦ください。

★博物館イベントのご案内  
「将棋フェスティバル」開催

開催日 7月26日(日)  
会場 たいけん学習室

「プロ棋士指導対局」

9時～12時

「第5回里見香奈杯争奪」

出雲弥生の森ジュニア将棋大会

13時15分～17時

参加は、いずれも事前申し込みが必要です。

(見学は自由です。)

7月8日(水) 必着

大会実行委員会事務局

【電話】 21-7580

弥生の森お月見コンサート

9月23日(水・祝) 18時

秋の一夜、お月見と素敵な演奏で癒しのひとときをお過ごしください。

(弥生の森おまつ主催)

前売券 500円

(中学生以下無料)

8月上旬から発売

予定。

おたずねは、大津コミュニケーションセンターまで。

【電話】 21-0172



★シヨップ情報

博物館オリジナルポストカードに新作を追加しました!

従来の4種類に「博物館と史跡公園」「国富中村古墳」が加わり、計6種類になりました。博物館シヨップ限定販売です。

1枚 103円(税込)  
4枚セット 308円(税込)



★開催予告  
★館長講座

第1回 9月12日(土)

第2回 11月14日(土)

第3回 1月23日(土)

【講師】 渡邊貞幸(当館館長)

●時間 14時～16時

●受講料 300円

●定員 80名

★館長コラム⑭

今年には戦後70年。

私が物心ついた頃の

東京には、米軍の空襲で崩れた廃墟がまだあって、そこに「浮浪児」と呼ばれていた被災孤児が隠れ住んでいました。トタン板を組んだバラック小屋に住んでいる人もたくさんいたし、繁華街には物乞いする傷痍(しょうい)軍人が並んでいました。私は直接には戦争を知らない世代ですが、戦争の悲惨さを見聞きしながら育ちました。



戦争中は、考古学の研究成果は完全に無視されていました。日本史の教科書は「天皇の祖先はアマテラスオオミカミ」という話が始まり、「ヤマトノオロチ」などの神話と「金色のトビの威光で神武天皇がわるものを滅ぼした」というような神懸った物語ばかりで、縄文も弥生も出てきませんでした。敗戦の翌年、考古学者の甲野勇氏は戦争中の反省を込めて、「科学的なる古代史はまず考古学的事実に立脚しなければならぬ」と宣言します。そして「今後の歴史教育に対して博物館の分担する任務たるや、きわめて重かつ大と言

(発行)出雲弥生の森博物館 2015年7月

〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760

(TEL)0853-25-1841 (FAX)0853-21-6617

(e-mail)yayoi@city.izumo.shimane.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料 / 無料

●開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)

●休館日 / 火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始

わねばならない」と述べています。甲野氏の主張は、戦後の新しい考古学と博物館の原点を示すものです。今では誰もが当然だと思っ

言えることですが、当然のことが言える時代を実現するために、日本は甚大な犠牲を払いました。

考古学は戦争のない平和なときに発展する学問です。俳優の吉永小百合さんは、「戦後何年という言い方がずっと続いてほしい」と言っています。戦後第一世代の私も、心からそのとおりだと思わずにはいられません。

(渡邊貞幸)